

# 御殿場口雪代堆積地の植生調査と侵入植物除去活動

平成29年（2017年）2月

特定非営利活動法人富士山の森を守るホシガラスの会

## 御殿場口雪代堆積地植生調査

特定非営利活動法人富士山の森を守るホシガラスの会  
《御殿場市市民協働型まちづくり事業》

### (1) 調査の背景と目的

約300年前の宝永噴火による森林の消失から、火口西側斜面は標高2,500m付近、南側は標高2,150mの第三火口内まで先駆植物のカラマツが進出し再び森が形成されつつある。南東側のスコリア斜面は砂礫を吹き飛ばす突風、日照の輻射熱による高温と乾燥という厳しい環境の中で先駆植物のイタドリなどを先頭に少しずつ森が形成されてきた。しかし御殿場口から須走口に至る斜面は数十年単位で起こる大規模な雪代（スラッシュ雪崩）により植生の消失を繰り返し、森林限界は標高1,400mあたりに停滞している。【富士山南東斜面雪代堆積地の自然環境 参照】

この火山荒原の森林化を目的に1970年頃より市民団体、自治体などによる植栽活動が開始された。植栽にあたっては麓の雑草を持ち込まないため、苗の土を落とし、ピートモス（園芸用培養土）を利用するなどの対策がとられた。

2000年代になり、植栽活動を行っている一部の団体がポット苗と土壌改良を目的とした肥料などを持ち込んだことにより帰化植物を含む非在来植物が激増した。



植栽樹の根元から発芽した帰化植物

植栽樹の根元の土と堆肥

根元の木材チップ堆肥

大量に散布されている

2014年11月、県環境局富士山保全班から当会に御殿場口の外来植物についての情報提供の要請があり、当会は県に対し現状を説明するとともに植栽活動を行う団体と植栽が行われている区域に係わる地権者、自治体、環境団体とで問題共有を図ることを要望した。

県は、2014年12月、情報交換会を開催、当会は11月に実施した調査結果(※1)を配布し、各団体間に侵入植物の問題が共有され、対策が必要であることを確認した。

【※1 富士山南東斜面の自然環境と植栽活動について 平成26年11月15日 ホームページで公開】

当会は侵入植物の調査と駆除への取り組みを開始し、侵入植物の駆除に活用するため、2015年度の御殿場市市民協働まちづくり事業として季節ごとに侵入種調査を実施し、その結果(※2)を基に侵入植物駆除のためのハンドブック「御殿場口雪代堆積地の侵入植物」を作成した。

【※2 御殿場口雪代堆積地の侵入植物調査 平成28年2月1日 ホームページで公開】

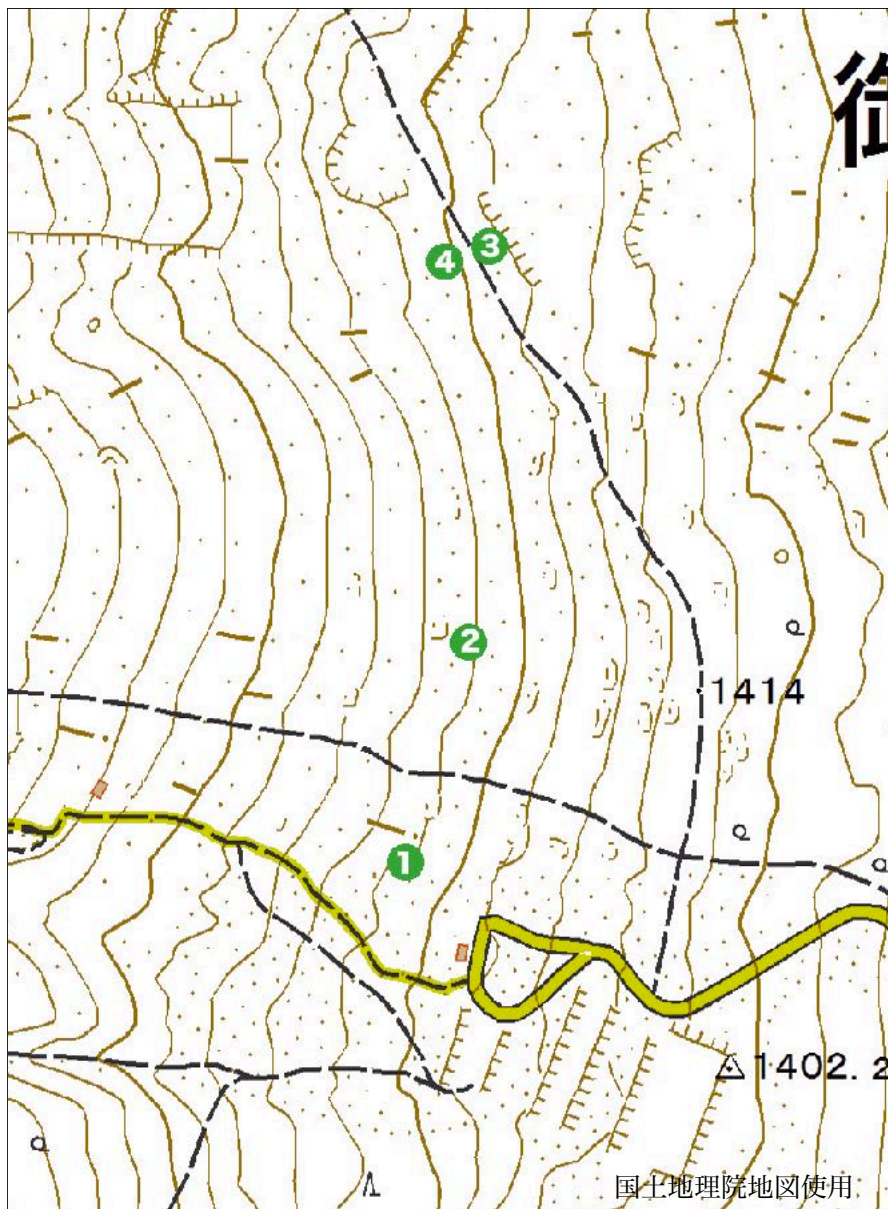
2016年度は、8月に地元ボーイスカウトによる駆除活動、9月に県主催の第2回外来植物撲滅大作戦として帰化植物のヒメスイバを中心に24kgを駆除するなどの成果を上げた。

植栽によって持ち込まれた土などがシードバンクになっていることから、長期にわたる駆除活動が必要になると思われる。この調査は、植栽地の植生を正しく把握し、侵入植物対策の効果を検証することを目的とするものである。

## (2) 調査方法

富士山スカイライン道路脇や駐車場、各登山口の駐車場周辺などでは、車、登山者、観光客などにより運ばれたと思われる外来植物が確認されているが、ここでは駐車場や登山道から離れた標高1,450m前後の裸地を含む場所に5m×5mのコドラートを4箇所設定して調査を実施した。コドラート①、②は植栽が行われてから時間が経過しているとみられ、③、④はあまり時間が経過していないと思われる。

調査日 2016年8月1日 調査担当 元静岡県自然環境調査委員会植物部会会員 佐藤孝敏  
コドラート設置場所の検討(7月22日)、植生調査および写真撮影(8月4日)



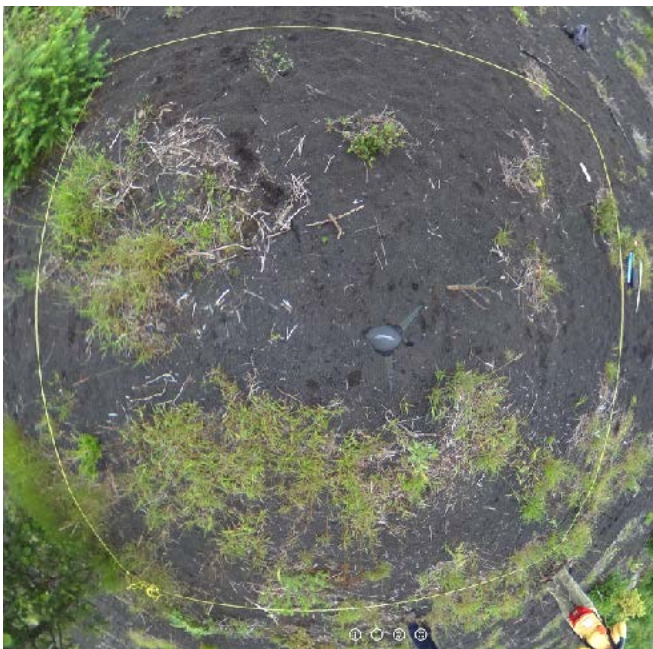


御殿場口雪代堆積地植生調査【コドラート①】 5m×5m

位置 N : 35°20'11.70" E : 138°47'38.16" 標高1,459m

調査日 2016年8月1日 写真撮影 2016年8月4日

分類	種名	被度(※)	備考
木本	マメグミ	r	食害
	シモツケ	+	食害
	ミヤマイボタ	r	植栽 非在来種
	ミヤマヤナギ	+	植栽 食害
草本	カリヤスモドキ	+	
	キオン	+	食害
	クサボタン	+	
	コタヌキラン	+	
	タチツボスミレ	+	食害
	ノコンギク	+	
	タカネノガリヤス	+	
	ヤマホタルブクロ	1	
	ヨモギ	+	



コドラート全景



コドラート近くの小パッチ

コドラートの植被率：30%

全域で植物の生育が良くない印象を受けたため後年比較するためパッチを記録した

※ 被度    r : ごく少ない    + : 1%以下    1 : 1~10%    2 : 10~25%  
           3 : 20~50%    4 : 50~75%    5 : 75~100%

御殿場口雪代堆積地植生調査【コドラート②】 5m×5m

位置 N : 35°20'17.83" E : 138°47'40.22" 標高1,462m

調査日 2016年8月1日 写真撮影 2016年8月4日

分類	種名	被度	備考
木本	ウリハダカエデ	r	植栽 非在来種
	シモツケ	+	食害
草本	イタドリ	2	
	カリヤスモドキ	2	
	キオン	+	
	クサボタン	+	
	ノコンギク	r	
	ヤマホタルブクロ	l	
	ヨモギ	+	



コドラート全景



コドラートに隣接するパッチ



御殿場口雪代堆積地植生調査【コドラート③】 5m×5m

位置 N : 35°20'29.21" E : 138°47'41.11" 標高1,442m

調査日 2016年8月1日 写真撮影 2016年8月4日

分類	種名	被度	備考
木本	ウツギ	r	植栽 非在来種
	ウリハダカエデ	r	植栽 非在来種
	カマツカ	r	植栽 非在来種
	ナナカマド	r	
	ヤマハンノキ	l	
草本	イタドリ	l	
	カリヤスモドキ	l	
	キオン	+	
	ギボウシsp.	r	
	ススキ	+	
	トダシバ	+	
	フジアザミ	+	
	ヤマハハコ	r	
	ヨモギ	2	



コドラート全景

御殿場口雪代堆積地植生調査【コドラート④】 5m×5m

位置 N : 35°20'28.71" E : 138°47'39.57" 標高1,450m

調査日 2016年8月1日 写真撮影 2016年8月4日

分類	種名	被度	
木本	アオダモ	r	植栽 非在来種
	イヌエンジュ	l	植栽
	ウリハダカエデ	+	植栽 非在来種
	カマツカ	+	植栽 非在来種
	シモツケ	+	
	ナナカマド	r	植栽
	マメグミ	r	植栽
	ミズナラ	+	植栽 非在来種
	ミヤマイボタ	+	植栽 非在来種
	ヤマボウシ	l	植栽 非在来種
	草本	イタドリ	+
カリヤスモドキ		2	
キオン		+	
ススキ		r	
ノコンギク		+	
フジハタザオ		+	
ヤマホタルブクロ		+	
ヨモギ		+	



コドラート全景



## 調査域の植生について

侵入植物の調査を行った前年と比較すると裸地部分での植物の生育が悪く、外来種および非外来種は10%程度しか確認できないという印象であった。これは地面の乾燥によるものと思われる。

全域でニホンジカによる食害が顕著に見られた。先駆植物のミヤマヤナギ、イヌエンジュ（写真）などの被害は将来にわたり深刻な影響を及ぼすと思われる。植栽されたミヤマヤナギ（バッコヤナギは確認できず）も枯死した株が目立った。

動物は数頭のニホンジカを確認、糞は大部分がニホンジカ、その他にノウサギ、キツネなどを確認した。また、多数のニホンジカの足跡、ノウサギの堀跡などが見られた。



糞・・・ノウサギとキツネ

## 食害の状況



グミ



コタヌキラン



シモツケ



ミヤマヤナギ

## 侵入植物

この区域では2015年までの調査で外来種を含む91種の侵入植物を記録している。今年度は一連の調査および駆除活動の中で新たにキュウリグサ（写真・庭、道端、畑などに見られる）を記録し92種となった。

ハンドブック「御殿場口雪代堆積地の侵入植物」には収録されていないが、コドラートで確認された、アオダモ、ウツギ、ウリハダカエデ、カマツカ、ミズナラ、ミヤマイボタ、ヤマボウシなどの植栽されたものは非外来種である。



## 下線訂正(1995年→2015年)

## 謝辞

本調査および環境保全活動は、御殿場市、玉穂財産区、小山町、西沢山野保護申合組合、陸上自衛隊富士学校のご理解とご協力をいただき実施することができました。ここに深く感謝申し上げます。





ボーイスカウト 8月6日



侵入植物の除去作業を行う参加者＝富士山御殿場口新5合目付近

## BS御殿場小山地区とNPO

広域ワイド



ボーイスカウト御殿場小山地区とNPO法人「富士山の森を守るホシガラスの会」はこのほど、御殿場市の富士山御殿場口新5合目周辺で、富士山固有の植生を阻害する恐れのある「侵入植物」の除去作業を行った。

# 富士山の生態系を守る

## 新5合目周辺「侵入植物」を除去

同市、小山町のボーイスカウトのメンバー約50人が、同会の会員に指導を受けながらイワニガナ、スギナ、タケニゲサなど本来は富士山に生えていない植物を抜き取った。

同会はこれまでに、富士山で91種類の侵入植物を確認している。侵入植物には外来種だけでなく、植樹した苗木の土などを介して富士山に根付いてしまうケースもあるという。

同会の横山澄夫理事長は「生命力が強い侵入植物が増えると、富士山固有の植物を駆逐し、やがては昆虫や鳥類などの生態系にも影響を及ぼす。富士山本来の自然をみんなで守っていきたい」と話した。

(御殿場支局・豊竹 喬)





# ふじさんネットワーク通信。

会員  
募集中!



© 静岡県

## ●富士山憲章【行動規範】

- 1・富士山の自然を学び、親しみ、豊かな恵みに感謝しよう。
- 1・富士山の美しい自然を大切に守り、豊かな文化を育もう。
- 1・富士山の自然環境への負荷を減らし、人との共生を図ろう。
- 1・富士山の環境保全のために、一人ひとりが積極的に行動しよう。
- 1・富士山の自然、景観、歴史・文化を後世に末長く継承しよう。

## 1 富士山の自然観察会と第2回外来植物撲滅大作戦を実施しました！

富士山御殿場口新五合目に広がる火山荒原において、午前は自然観察、午後は外来植物の除去を行いました。自然観察では、植生遷移が分かるパッチ（植物が群状に分布する場所）や、登山道沿いの地面に組まれた野鳥の巣、森林内で交雑する針葉樹などについて、間近に見て、触れながら解説を受けました。除去活動では、五合目の東側に生えたヒメスイバを主な対象として、24kg分を抜き取りました。

開催日時	平成28年9月10日（土）10：00～14：00		
実施場所	富士山御殿場口新五合目	参加人数	47名
案 内	NPO法人 富士山の森を守るホシガラスの会		



ホシガラスの会志賀副理事長の解説



植生遷移が分かるパッチ



駆除活動の様子



除去の成果（24kg分）